

実践道場

【タレント養成所】

株式会社 遊



【仕事感について】

■「勤勉」では戦えない労働に創造力革命を

眠くなったら職場で横になり、起きたらまた仕事に取りかかる。そして数日後、作業が一段落したら、「じゃあ、ちょっと家に帰って、風呂でも入るか」と。ビジネスの世界はやはり厳しいものである。

■「時間で働く」概念を捨てよ

日本の企業は昔のような野放図とも言えるくらい、伸び伸びと研究開発に打ち込める雰囲気は、薄れてしまいました。これは、国際競争にさらされている産業にとって、大きなハンディキャップです。デファクト・スタンダード(事業上の業界標準)を握るような技術や商品が、なかなか生み出せなくなった。

「自らが勝ち馬となり、先頭を走る」という気概を取り戻さなければなりません。そこで、私は「労働革命を起こせ」と主張しています。「決められた時間を、一生懸命働きました」なんていう「勤勉」の価値観では、ライバルを相手に戦えない。クリエイティビティ(創造力)を、評価の中心に位置づけるべきです。

米国では、クリエイティビティを要求される従業員は、驚くほど働いています。米マイクロソフトのエンジニアは、出勤する時にクルマに寝袋を積んでいる——。そんな晩話もあるくらいです。

創造性を求められる社員には、労働基準法の「時間で働く」という概念を当てはめてほしくない。彼らの業務は従来の「労働」とは違うんです。

■自己責任で働く社会に変える

古来、日本は実力主義の国でした。織田信長が、農家の生まれだった木下藤吉郎を抜擢したのも、その一例です。だが、いつしか変に偏った平等意識がはびこる社会になってしまった。

いま一度、実力主義に戻るべきですが、成果の測り方は難しい。人事評価に100点満点の回答はありません。社員から不満も出るでしょう。そうやってのたうち回りながら、良い人事評価システムに仕上がるわけです。

社員も「会社のせいで病気になった」というような泣き言を口にするのはやめた方がいい。働きたい時に働き、休みたい時に休む。すべて自己責任で働く社会に変える——。そうしてこそ企業も社員も、閉塞状況を超えて、未来への希望が見えてくるはずです。

■SKILL より WILL

会社や組織に依存しない、自立心が強く挑戦意欲の高い人の「WILL」を求む。
そこから SKILL→SKILL UP へと進むのです。遊には、こられのプログラムが用意されています。それを総称して実践道場と表現しているのです。
又は、タレント養成塾ともいえます。【タレント＝才能】を発掘し、磨き上げる。
トップタレント(スーパープランナー)になるもソコソコのタレントになるも、売れないままも、あなたの能力次第です。

■個性引き出し機関

個性を引き出せる環境が用意されています。マネージャーやチーフ、そして先輩プランナーがサポートします。さらに実践を通し、お客に鍛えられます。育てられます。そのために全ての業務を担当するようになっています。
泣くことはストレスにとっても良いそうです。あなたも大いに泣いてください。悲し泣き、怒り泣き、嬉し泣き…。弱い人は要りません。
ここで耐えられたら一流になれます。
独立志向の高い人やスキルアップを目的にされる人達のための熱い集団です。
仲間となるあなたはこの環境の中でスーパープランナーへと成長するのです。

■・・・というわけで。

ここでは安定した収入は保証されません。ただし、能力次第では高収入も望めます。
まず、3年目には年収 300 万円、更に 5年目には 500 万円の目標を持って下さい。給料をもらうのではなく、実力で得るのです。(ちなみに医学界の話ですが、研修医はつい最近まで月 3 万円の手当てでした。)
というわけで、遊で働くには、ご家族(両親や夫)の理解を得て下さい。ご家族の協力や理解がないと長続きしません。所詮、人は周りの人々に助けられて一人前になるものです。大切なのは、早く一人前になって成長し、その人に「成長」という恩返しをすることなのです。

■青い鳥は何処にいる？

自分探しは終わりましたか。
働く意味が見い出せましたか。
働く価値が問われています。
あなたの人生のグランドデザインは描かれていますか。

脚本は出来ています。舞台も用意しています。
あなたは俳優になって「自分」を演じてください。
観客からの拍手が俳優に自信を持たせ、さらに磨きがかかり一流になるのです。
何か「ひとつ」に打ち込んでいる姿は実に美しい。
さあ、仲間はまだ活躍し始めました。

遊で仕事をするということは…。

やりがい … 100%ある。

人間関係 … 非常に良い。

収入 … 自ら勝ち取るもの。

目標 … 自分で決めること。

昇進 … 関係ない。

規律 … 自分自身の問題。

時間 … 自分で組み立てる。

休暇 … 本人の自由。

社風 … 作るのはあなた。

知識 … 実践に役立つ知識が身に付く。

